

# モザンビークと日本が共同して展開する環境ESDモデルの構築

- グローバル倫理の形成を目指した地域, NPO, 大学の協働 -

## Symposium on developing an environment-ESD model under the collaboration between Mozambique and Japan

- Cooperation between the Society, NPOs and Universities in capacity building for global ethics -

【背景】愛媛大学は、地域にある総合大学として、もてる知的・人的資源を生かし、地域・環境・生命を主題とする教育研究を重点的に推進し、学術研究成果の還元とすぐれた人材の輩出を通じて、社会の持続可能な発展、人類と自然環境の調和、世界平和に貢献することを大学の基本理念として掲げています。愛媛大学はこれまで当理念に基づき、平成18年度文部科学省現代GP「テーマ：持続可能な社会につながる環境教育の推進」採択事業である「瀬戸内の山へ里へ海へ人がつながる環境教育-大学と地域との相互学びあい型環境教育指導者育成カリキュラムの展開-」の中で、愛媛大学環境ESD指導者養成カリキュラムを展開してきました。本取り組みは、大学の教育カリキュラムを通して大学の知的・人的資源を社会に還元しながら地域のニーズをカリキュラムにフィードバックすることで、地域の持続可能な社会づくりに貢献する先進的かつ常に社会のニーズに対応する生きたカリキュラムモデルを提示し、これまでに延べ約300名の学生とともにESDを展開してきました。

カリキュラムは、NPOとも積極的に連携してきました。連携先のひとつである「えひめグローバルネットワーク」は、日本のなかでも先陣を切ってアフリカ・モザンビークにおいて平和活動を6年以上にわたって展開しています。えひめグローバルネットワークの活動は、モザンビーク大統領に高く評価され、昨年5月に開催されたTICADIVに合わせてモザンビーク共和国アルマンド・エミリオ・ゲブザ大統領、はじめ主要閣僚を含む33名の代表団が愛媛県を訪れました。その際、愛媛大学にて、今後環境ESDを通じた両国の高等教育機関の協力関係を築いていくことに同意しました。今回のシンポジウムは、この経緯に基づき、今後高等教育機関が主導して展開するESDカリキュラムモデルを構築するための前段階として位置づけられます。

【将来目標】モザンビークー日本（MJ）ESDカリキュラムモデルの構築

本モデルは現状では異なる条件下においてモザンビーク、日本がともに持続不可能な社会情勢にあることを明確に認識した上で、双方向の学びあいのプロセスを基調として教育活動を展開し、両国間において適用可能な協働ESDモデルを構築します。本ESDモデルは、高等教育機関で実施するカリキュラムとその中から派生的につくられる初等・中等教育および社会教育を対象とした教材や教育プログラムで構成される予定です。

### 【シンポジウム概要】

2008年3月7日（土）ESD国際シンポジウム

＜Session 1: ESDの国際的な動向＞

- ・趣旨説明 小林 修（愛媛大学環境ESD担当）
- ・「国連DESDの折り返しを迎えて-現状と課題そして今後」  
Prof. Hans Van Hinkel (元国連大学学長)
- ・「国連RCEの取り組みと世界の動向」  
名執 芳博（国連大学高等研究所上席研究員）
- ・「現代社会と倫理」  
柴崎 文一（明治大学政治経済学部・環境倫理）

＜Session 2: アフリカ・モザンビークにおけるESDの展開＞

- ・趣旨説明 船田クラークセンさやか（東京外語大学）
- ・「アフリカにおけるESDの展開と国際連携の動向：RCEとしてのジンバブエ・コレラ危機への対応」  
Jim Taylor (Director of Education, Wildlife and Environment Society of South Africa)
- ・「モザンビーク北部の現状と課題そしてLurio大学の取り組み One Student – One Family」  
Eusebio Chaquise (Lurio University, Director of Extension and Postgraduate Courses)
- ・「モザンビーク南部におけるMaputo RCEプロジェクト」  
Aristides Baloi (Eduardo Mondlane University, Faculty of Arts and Social Science)

＜Session 3: 愛媛大学のESDの取り組みと国際展開＞

- ・趣旨説明 栗田英幸（愛媛大学グローバルスタディーコース）
- ・「愛媛大学ESD指導者養成カリキュラムの取り組み」  
小林 修（愛媛大学環境ESD担当）
- ・「大学と地域そして世界を紡ぐNGO活動とESD」  
竹内よし子（NPO法人えひめグローバルネットワーク代表）
- ・「フィリピンにおける愛媛大学環境ESD学生研修の展開」  
栗田英幸

3月8日（日）ESDフィールドワークショップ

＜Session 4: 東温市川内における環境ESDの取り組み＞

- ・愛媛県東温市井内周辺探索（棚田の風景、里山の実際）
- ・東温De国際交流「魅力発見・未来発見、東温マップづくり」
- ・交流昼食会：持続可能な食事（地元食材を活用した新商品、地元婦人会による手作り料理）

＜Session 5: 内子町道の駅と町並み保存の成功＞

- ・内子町道の駅「からり」、町並み保存地域の散策
- ・内子De国際交流「魅力発見・未来発見、内子マップづくり」

3月9日（月）国際シンポジウム総括

- 核テーマ、農村開発、沿岸開発、医療開発、平和開発について
- 1) 各国の現状や実践事例のポテンシャルについて分析を行い、討論を通じて、
  - 2) 高等教育と地域との協働による環境ESD展開の可能性と、
  - 3) 世界に発信することのできるモザンビーク・日本両国の協働による具体的な環境ESD実施計画を策定することを目標とする。